

認知症の人及び家族等の意見を反映した認知症に関する計画の策定

○共生社会の実現を推進するための認知症基本法が目指す共生社会の実現に向けては、基本法の前文のとおり、国民一人一人が「新しい認知症観」に立つこと、認知症の人と家族等と共に施策を立案、実施、評価すること、認知症の人が地域生活における様々な場面で感じている希望や課題等に視点をおいて、保健医療介護福祉関係者はじめ関連する分野の関係者等が連携して取り組むことが重要である。

○そこで、基本法に関連した現状・課題認識、必要な支援・施策等把握することを目的として、本人、家族、県民、医療・介護従事者を対象とし認知症に関するアンケート調査を実施しました。

<調査内容>

質問項目は、以下の調査研究事業を参考に、国の認知症施策推進基本計画の重点目標1～3にかかるアウトカム指標が把握できるようにしました。

*参考とした資料

株式会社日本総合研究所が令和5年度に実施した「令和5年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業「認知症施策のあり方に関する調査研究事業」」の本人、家族、専門職向け調査

調査対象	調査方法	設問数	回答数	備考
認知症の本人	聞き取り	16問	765人	回答者の居住場所は、在宅48.1%、施設51.0%であった
認知症の本人の家族	郵送アンケート	17問	287人	
県民	E-モニターアンケート	14問	1,000人	
医療・介護従事者	WEBアンケート	14問	1,179人	

(1) 認知症に関する意識調査報告 –認知症の本人対象– (抜粋)

・認知症の理解

10.周囲の人が、「認知症」と「認知症の人」に関して正しく理解していると思うか	割合(%)
そう思う	29.7%
ややそう思う	38.2%
あまりそう思わない	23.0%
そう思わない	7.7%
無回答	1.4%

周囲の人が、「認知症」と「認知症の人」に関して正しく理解していると思うかについては、「そう思う」29.7%、「ややそう思う」38.2%と理解していると思う人が67.9%であった。

・本人同士の交流、仲間等との外出の機会の有無

12.他の認知症の人と交流したり、友人、仲間等と外出しているか	割合(%)
そう思う	21.7%
ややそう思う	28.4%
あまりそう思わない	28.6%
そう思わない	21.0%
無回答	0.3%

他の認知症の人と交流したり、友人、仲間等と外出しているかについては、「そう思う」21.7%、「ややそう思う」28.4%と、他の認知症の人との交流があると思う人が50.1%であった。

・生きがいや希望

14.「生きがいや希望をもって、自分らしく暮らしている」と思うか	割合(%)
そう思う	25.8%
ややそう思う	37.4%
あまりそう思わない	28.2%
そう思わない	8.4%
無回答	0.3%

「生きがいや希望をもって、自分らしく暮らしている」と思うかについては、「そう思う」25.8%、「ややそう思う」37.4%と生きがいや希望を持ち自分らしく暮らしていると思う人が63.2%であった。

・希望する医療や福祉サービスが受けられているか

15.自分の希望する医療や福祉サービスを受けられているか	割合(%)
受けられている	92.0%
受けられていない	7.5%
無回答	0.5%

自分の希望する医療や福祉サービスを受けられているか、「受けられている」92.0%であった。

(1) 認知症に関する意識調査報告 -認知症の本人対象- (抜粋)

「認知症になっても、希望を持って日常生活を過ごすために、こうなったら良いと思うことがあれば、教えてください。

自由意見

- ・デイサービスの利用を増やし、死ぬまで自宅で過ごしたい。
- ・1人の人としてあつかってもらいたい。わからなくなってもおこらずにやさしくしてほしい。
- ・認知症に対して偏見をなくしてほしい。
- ・家で最後まで好きなことをして母ちゃんと居たい。
- ・家にできる限り居たい。病院や買い物を手伝ってもらいたい。自分できることはしたい。あまり家族に迷惑をかけたくない。
- ・幾つになっても好きなことをしたい。人との交流を大切にしたい。
- ・いつもデイサービスへ来て、みんなと話したり歌をうたったりしてずっとたのしく生活できるように元気でいたい。
- ・色々な人に会いたい。話がしたい。
- ・お母さんが凄く動いてくれている。負担を多くかけているので、他の支援者がいて負担を分散出来たら嬉しい。
- ・気ままに過ごせ、少しは人の役に立てるような場があれば良いと思う。
- ・今更施設に居たいと思わない。自分ではまだやって行けると思うので帰らしてほしい。
- ・夫と二人でなんとかやっている。近くに良い施設があればよいのですが、、、。
- ・お父さんが面会に来てくれるのが楽しみ。毎日でも来てくれたらよいと思う。
- ・思う様に動けない。妻や子供に全部してもらっている。ありがたい。
- ・近所に、高齢者同士で気軽に話せる場所があると良い。
- ・今は簡単な仕事をしているが出来れば続けたい。
- ・どこでも役割を持って、頼られる生活が出来たら嬉しい。
- ・物忘れ？進まないといいな。娘が助けてくれて嬉しい。

(2) 認知症に関する意識調査報告 - 認知症の本人の家族対象- (抜粋)

・自立して安心して暮らせているか

12. 認知症の診断を受けたあなたのご家族は、自分自身が「自立して、かつ安心して、周囲の人々と共に暮らしている」と思うか	割合(%)
そう思う	23.0%
ややそう思う	33.8%
あまりそう思わない	27.2%
そう思わない	14.6%
無回答	1.4%

家族からみて、認知症の人自身が「自立して、かつ安心して、周囲の人々と共に暮らしている」と思うかについては、「そう思う」23.0%、「ややそう思う」33.8%という結果で、あわせると56.8%であった。

・希望する医療や福祉サービスが受けられているか

14. 認知症の診断を受けたあなたのご家族は、自分の希望する医療や福祉サービスが受けられているか	割合(%)
受けられている	88.2%
受けられていない	10.5%
無回答	1.4%

家族からみて、認知症の人自身が希望する医療や福祉サービスが受けられているか、と思うかについては、「受けられている」と思う人は88.2%であった。

・相談できる人の有無

15. あなたは、「自分自身の状況に配慮し、相談にのってくれる人がいる」と思うか	割合(%)
そう思う	62.0%
ややそう思う	29.3%
あまりそう思わない	7.7%
そう思わない	0.3%
無回答	0.7%

「自分自身の状況に配慮し、相談にのってくれる人がいる」と思うかについては、「そう思う」62.0%、「ややそう思う」29.3%という結果で、あわせると91.3%であった。

(2) 認知症に関する意識調査報告 -認知症の本人の家族対象- (抜粋)

- ・ 認知症の診断を受けたあなたのご家族を介護するとき、困難に感じていること（選択は複数可能）

16. 認知症の診断を受けたあなたのご家族を介護するとき、困難に感じていること（選択は複数可能）	割合(%)
服薬管理	11.0%
食事の準備	9.8%
日用品の買い物	6.0%
洗濯や掃除	6.0%
入浴、排泄、着替えの介助	16.4%
受診時や外出時の付き添い	14.2%
日常的な見守り	19.8%
仕事と介護の両立	11.6%
その他	2.2%
特になし	2.8%
無回答	0.2%

ご家族を介護するときに困難に感じることは、「日常的な見守り」19.8%、「入浴、排泄、着替えの介助」16.4%、「受診時や外出時の付き添い」14.2%の順に多かった。

(2) 認知症に関する意識調査報告 -認知症の本人の家族対象- (抜粋)

「認知症になっても、希望を持って日常生活を過ごすために、こうなったら良いと思うことがあれば、教えてください。

自由意見

- ・周りの正しい理解
- ・本人、及び介護をしている家族が安心できる介護サービスを受けられること。
- ・理解して寄り添ってくれる人が周りに居てくれると有り難いと思う。
- ・住みなれた所で安心して、日常生活がおくれるようコミニティーの場所をふやしてほしい。
- ・交通手段や社会資源、交流場が大変少ない。
- ・介護していない人もいつか我が身に降りかかってくると他人事とおもわれないような取組をしてほしい。
- ・介護と仕事との両立 仕事の継続が出来る配慮など。
- ・行政の方がもっと現場をよく見てほしい。もっと足を運んでほしい。
- ・偏見がなくなる世の中であってほしい。
- ・やはり家族が安心して仕事に専念できるためには、気軽に利用できる施設がたくさんあると良いと思います。
- ・みんなが気楽に集える場、小規模の施設がたくさんあれば良いと思う。
- ・気持ちを汲み取ってくれる職員さんが増えることを望みます。

(3) 認知症に関する意識調査報告 -県民対象- (抜粋)

・認知症の理解

あなたは「認知症」と「認知症の人」に関して正しく理解していると思いますか。最もあてはまるものを1つえらんでください。

回答	県民
理解している	9.4%
ある程度は理解している	42.1%
あまり理解できていない	38.1%
全く理解できていない	10.4%

「認知症」と「認知症の人」に関する正しい理解について、「理解している」9.4%、「ある程度は理解している」42.1%であり、あわせると51.5%であった。

・認知症に対するイメージ

認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。最も近いものを1つ選んでください。

回答	県民
認知症になっても希望をもって日常生活を過ごすことができる	6.0%
認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で自立的に生活できる	7.4%
認知症になっても、周囲のサポートや、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける	31.0%
認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要となる	17.8%
認知症になると、暴言・暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる	6.0%
認知症になると、症状が進行していき、何もわからなくなる、何もできなくなる	12.1%
その他	0.5%
わからない	19.2%

認知症に対するイメージについて、「認知症になっても、周囲のサポートや、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける」と回答した割合が31.0%で最も大きかった。次に割合が大きかった回答は、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要となる」であった。

(3) 認知症に関する意識調査報告 -県民対象- (抜粋)

・認知症基本法の理解

2023 年6月、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法(以下、認知症基本法)」が成立し、2024年12月に国は認知症施策推進基本計画を策定しました。その計画のなかで「新しい認知症観」が示されました。あなたは「新しい認知症観」を理解していると思いますか。最も近いものを1つ選んでください。

回答	県民
理解している	4.0%
ある程度は理解している	29.8%
あまり理解できていない	41.6%
全く理解できていない	24.6%

共生社会の実現を推進するための認知症基本法に対する認知について、「あまり理解できていない」が41.6%で最も割合が大きかった。

・社会として、最も重点を置くべき認知症施策について、重要だと思うものを選んでください。(複数回答あり)

回答	県民
予防への取組	42.1%
早期発見への取組	47.0%
医療機関の整備	20.3%
医療機関と介護との連携の強化	31.5%
治療方法の開発	30.5%
施設やサービスの整備・充実	28.2%
介護職員への教育・研修	14.7%
正しい理解の普及	28.0%
相談支援体制の充実	22.5%
地域で支える取組	24.0%
若年性認知症患者への支援	15.4%
その他	0.6%
わからない	21.2%

社会として、最も重点を置くべき認知症施策について重要だと思うものは、「早期発見への取組」が、47.0%で最も大きかった。次に、「予防への取組」が42.1%であった。

(4) 認知症に関する意識調査報告 -医療・介護従事者対象- (抜粋)

・認知症の人の意思の尊重、権利利益の保護

あなたは、「地域生活の様々な場面において、認知症の人の意思が尊重され、本人が望む生活が継続できている」と思いますか。最も近いものを1つ選んでください。

回答	専門職 (医療・介護従事者)
そう思う	8.0%
ややそう思う	33.4%
あまりそう思わない	55.2%
全くそう思わない	3.4%

地域生活の様々な場面において、認知症の人の意思が尊重され、本人が望む生活が継続できていると思うかについて、「あまりそう思わない」が55.2%で最も割合が大きかった。

・認知症に対するイメージ

あなたは、「認知症の人が自分らしく暮らせる」と思いますか。最も近いものを1つ選んでください。

回答	専門職 (医療・介護従事者)
そう思う	11.9%
ややそう思う	46.6%
あまりそう思わない	40.4%
全くそう思わない	1.2%

認知症の人が自分らしく暮らせる」と思いますかについて、「ややそう思う」が46.6%で最も割合が大きかった。

(4) 認知症に関する意識調査報告 -医療・介護従事者対象- (抜粋)

・保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備等

もし、あなたが認知症になったら、どのように暮らしたいと思いますか。あなたが思う最も近いものを1つ選択してください。なお、ご自身が認知症の診断を受けている場合は、今後の暮らし方の希望について、最も近いものを1つ選んでください。

回答	専門職 (医療・介護従事者)
自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活していきたい	7.6%
自分だけで十分出来ないことは家族や周囲のサポートも受けながら、今まで暮らしてきた地域で、できるだけ自立した生活をしてい	31.1%
医療や介護の専門的なサービスを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい	36.1%
身の回りのこと全般をサポートしてくれる介護施設に入所して暮ら	17.4%
その他	1.8%
わからない	5.9%

認知症になった場合の暮らしに関する意向について、「医療や介護の専門的なサービスを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」が36.1%で、最も割合が大きかった。

・社会として、最も重点を置くべき認知症施策について、重要だと思うものを選んでください。(複数回答あり)

回答	専門職 (医療・介護従事者)
予防への取組	58.9%
早期発見への取組	61.1%
医療機関の整備	25.6%
医療機関と介護との連携の強化	54.5%
治療方法の開発	44.6%
施設やサービスの整備・充実	43.3%
介護職員への教育・研修	41.8%
正しい理解の普及	59.5%
相談支援体制の充実	42.8%
地域で支える取組	54.5%
若年性認知症患者への支援	36.6%
その他	2.3%
わからない	0.5%

社会として、最も重点を置くべき認知症施策について重要だと思うものは、「早期発見への取組」が、61.1%と最も大きかった。次に「正しい理解の普及」が59.5%であった

(4) 認知症に関する意識調査報告 -医療・介護従事者対象- (抜粋)

「認知症になっても、希望を持って日常生活を過ごすために、こうなったら良いと思うことがあれば、教えてください。

自由意見

- ・認知症の程度によって、家族や近所のサポート・理解、医療・介護などのサポートがあれば今まで暮らしてきた地域で生活をしていける。
- ・認知症の症状や程度は勿論、その他本人様や周辺環境の状況等によって、どのような生活を送ることができるかは大きく変化する。
- ・軽度であれば、周囲のサポートを受けながら自宅で過ごしたいが、重度であれば全般をサポートしてくれる施設に入所したい。
- ・家族には、自身が認知症になった場合は、負担をかけたくないので、無理なら入所させていいと伝えている。
- ・家族の介護負担等が殆どない状況であれば、制度やサービスを利用して自宅で過ごしたいと思う。配偶者や子どもの生活に大きな支障がないように、生活を送りたい。
- ・社会資源(医療・金融・買い物・移動等)が自宅の近くにある地域で暮らしたい。
- ・自己決定はできない、1人での生活はできないなど決めつけられること。
- ・自分の意思が尊重されず、周囲に迷惑をかけてしまうことや、孤立してしまうことに不安を感じる。
- ・火災を起こしてしまわないか、交通事故を起こしてしまわないか、水を出しっぱなしにしてしまわないか、ネットで買い物を沢山してしまわないか等。
- ・介護・医療的サポートを受けるにあたり、金銭的負担が発生することへの心配。
- ・健康診断に認知症検査を組み入れ、医師から認知症であることを伝えることが、早期治療に繋がる一番の方法だと思う。
- ・認知症であっても、そうでなくても、その人を尊重できる社会の取り組みができることを願っています。
- ・医療福祉の人材不足の改善。
- ・今後増加する身寄りがない世帯に対する支援。